

第 70 回日本小児保健協会学術集会 シンポジウム 3

「日本小児保健協会の魅力を再発見し未来へつなげる—若手会員とともに学会活動を考えよう—」 会員ニーズ調査結果の報告と若手が考える 魅力的な学会活動に向けた検討

草野恵美子（若手による小児保健検討委員会，大阪医科薬科大学看護学部）

若手による小児保健検討委員会では，日本小児保健協会のさらなる発展に向けて，若手ならではの視点からさまざまな検討を行っている。その一環として，2023 年 1～2 月に会員ニーズ調査を実施し，その結果の一部を第 70 回日本小児保健協会学術集会におけるシンポジウム 3（日本小児保健協会の魅力を再発見し未来へつなげる—若手会員とともに学会活動を考えよう—）にて報告した。

この報告では，若手が考える魅力的な学会活動の検討に向けて，特に日本小児保健協会の魅力につながる結果に焦点をあてることとした。つまり，会員ニーズ調査結果を通して「小児保健協会の魅力」を発見してみようとしたものである。その内容について以下に記載し，魅力的な学会活動につながる一資料となれば幸いである。

なお，当委員会は別稿の委員長の報告の通り，具体的な活動については小グループに分かれて実施しており，本調査は調査実施時のグループ 1 および 3 のメンバー（図 1）が主担当で検討，委員会の承認を得て実施し，筆者が代表してシンポジウムにて報告した。

1. 会員ニーズ調査の目的

本調査の目的は，協会の日本小児保健協会（以下，本協会）に対するニーズや期待を明らかにすることにより魅力的な活動と協会の発展に寄与することを目指すこととした。

2. 調査実施方法

調査実施期間は 2023 年 1 月 4 日～2 月 28 日である。

調査方法は，無記名の Web 調査とし，本協会メールマガジンにて会員に周知して調査協力を依頼した。

倫理的配慮として，自由意思での回答とし，個人名，会員番号，メールアドレス等個人が特定される情報は収集しないこと，取得したデータは本調査の目的以外に使用しないこと，回答しなくても一切不利益を被ることはないこと等を文書にて説明し，回答をもって同意を得ることとした。

3. 主な調査結果

1) 回答者数・年代

134 人の会員から回答を得た。回答者の年代は，30 代 14 人（10.4%）・40 代 38 人（28.4%），50 代 39 人（29.1%），60 代 38 人（28.4%），70 代以上 5 人（3.7%）と，幅広い年代層から回答を得た。

2) 職種

職種については，最も多かったのは看護師 55 人（41.0%），次いで小児科医 43 人（32.1%）であった。他に，大学教員・研究職，小児科以外の医師や歯科医師，保健師・助産師等の看護職，臨床心理士等心理職，管理栄養士，理学療法士，言語聴覚士，社会福祉士，教諭（小・中・高），保育士，会社員であった。

3) 主な所属

最も多かったのは大学などの教育・研究機関で 49.2% であった。次いで，大学病院以外の病院であり，これに開業医，診療所・クリニック，開業助産師などを合わせると 38.1% が医療現場となっていた。

4) 本協会への入会理由 (図2)

入会理由 (複数回答) で約半数が選択していた項目

「会員ニーズ調査」グループ (グループ1・3)
メンバー (50音順・敬称略)

浅利 剛史* 札幌医科大学
阿部 百合子 日本大学
大町 太一 関西医科大学付属病院
草野 恵美子* 大阪医科大学
黒田 紀子 札幌市立大学
島袋 林秀 国立成育医療研究センター
田中 真衣 白梅学園大学
中山 祐一* 大阪公立大学
山田 由希子 九州歯科大学
山本 陽子 神戸市看護大学
淀谷 典子 三重大学

*集計担当者

(所属は2022年度のもので)



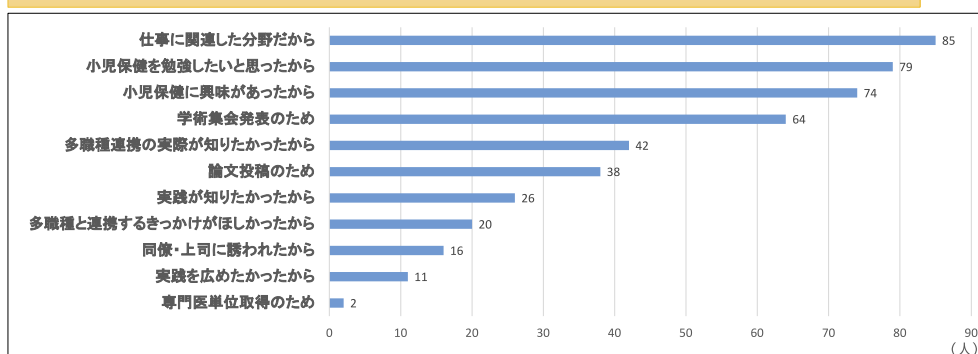
図1 「会員ニーズ調査」グループ1・3のメンバー

は、「仕事に関連」「小児保健を勉強したい」「小児保健に興味があった」「学術集会発表のため」であった。次いで「多職種連携の実践が知りたい」「論文投稿のため」となっていた。なお、本協会を知ったきっかけは「同僚・上司から聞いて」が最も多かった。

5) 入会して良かったこと (図3)

入会して良かったと感じたこと (複数回答) の上位5位は、「小児保健に関する最新情報を得られた」「小児保健の視野が広がった」「講習・セミナーが充実している」「多職種の視点を学べた」「学術的視点が広がった」であった。

本協会になぜ入会したのか? (複数回答)



約半数が選択していた項目は以下の通り。
「仕事に関連しているから」「小児保健を勉強したい」
「小児保健に興味があった」「学術集会発表のため」

図2 本協会への入会理由

入会して良かったと感じたこと (複数回答)

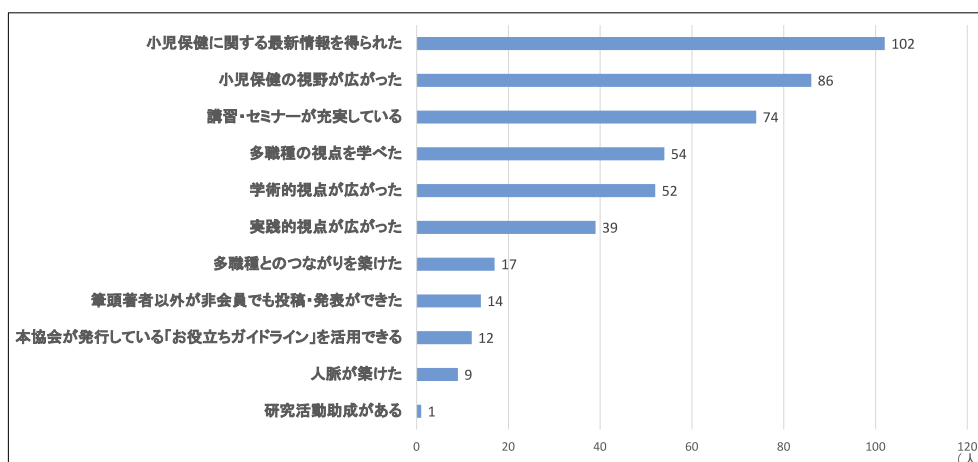


図3 本協会へ入会してよかったと感じたこと

本協会の活動内容についての情報をどのように入手しているか？

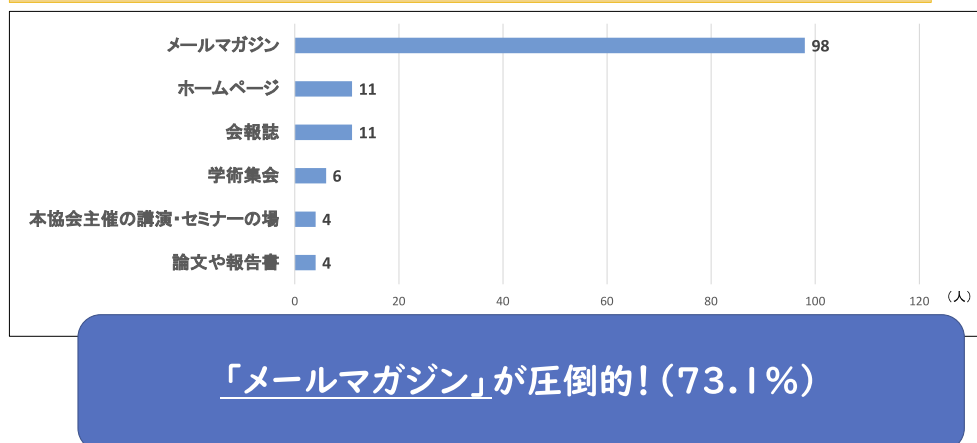


図 4 本協会の活動内容について情報をどのように入手しているか

会員の本協会に関する関心を高めるために今後さらに期待されるものは？

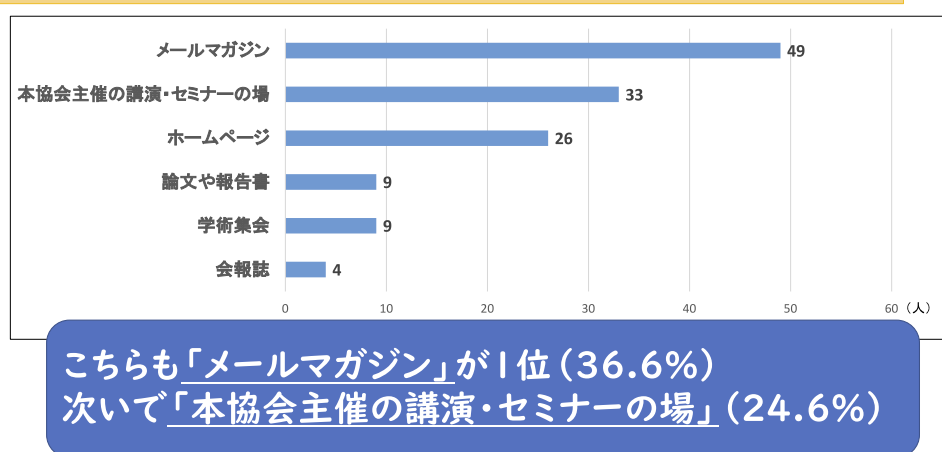


図 5 本協会に関する関心を高めるために今後さらに期待されるもの

6) 本協会の活動内容についての情報をどのように入手しているか (図 4)

本協会の活動内容の情報源は、「メールマガジン」が 73.1% と圧倒的に多くなっていた。

7) 会員の本協会に関する関心を高めるために今後さらに期待するもの (図 5)

今後さらに発展が期待されるものとしても「メールマガジン」が最も多くなっており、次いで「本協会主催の講演・セミナー」であった。

8) 学会誌「小児保健研究」について

本協会が発行する学会誌で現在、電子的に刊行されている「小児保健研究」については、回答者の 95.5% が読んでいると回答していた（「必ず読む (27.6%)」「たまに読む (67.9%)」）。

9) 本協会に期待していることは？ (3つ選択) (図 6)

本協会に期待していること (最大 3つ選択) で多かったものは、「診療や支援のガイドライン策定」「ICTを活用した会員向け教育支援」に続いて、「多職種で集える場づくり」「研究支援」「子ども向けコンテンツを掲載した WEB ページ作成」であった。

本協会に期待していることは？(3つ選択)

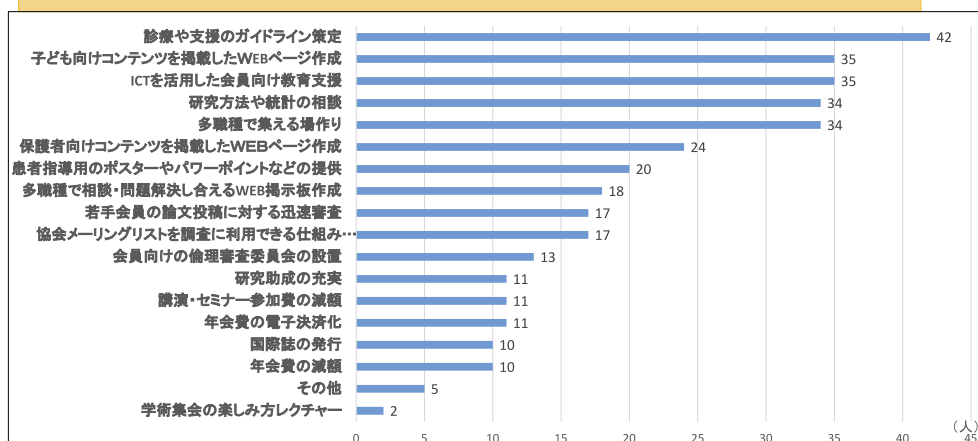


図6 本協会に期待していること(最大3つ選択)

「若手」と「ベテラン」 若手の方が多く回答していたのは？

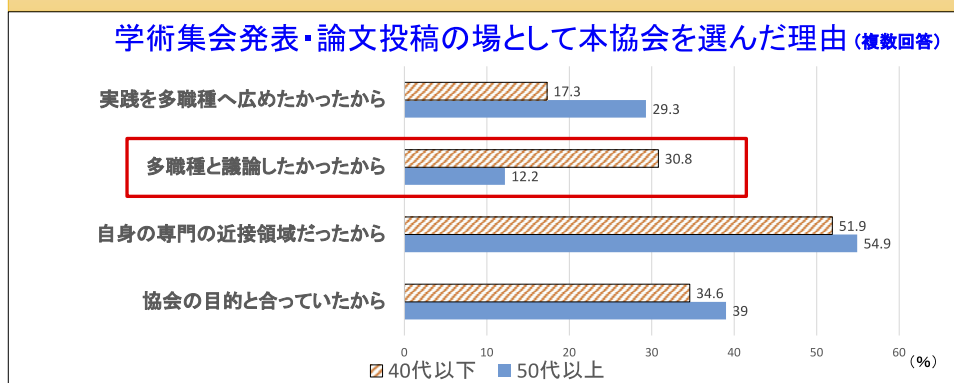


図7 若手・ベテラン比較：学術集会発表・論文投稿の場として本協会を選んだ理由

4. 「若手」と「ベテラン」の比較

最後に「若手」と「ベテラン」という視点で比較し、違いや共通性について検討した。今回は40代以下を「若手」(38.8%)、50代以上を「ベテラン」(61.2%)とし、有意差のあったものを紹介する。

有意な差があったもののうち、「若手」のほうが多く回答していた項目は、学術集会発表・論文投稿の場として本協会を選んだ理由としての「多職種と議論したかったから」であった(図7)。また本協会に関する情報源としての「メールマガジン」の活用をしている会員が若手のほうが多くなっていた(図8)。一方で「ベテラン」の方が多く回答したものは、入会して良かった理由という設問における「多職種とのつなが

りが築けた」「実践的視点が広がった」の項目であった(図9)。

5. 本調査結果からみつけた魅力や期待

上記結果より、本協会の特徴・魅力としてはまず、「多職種による会員構成」が挙げられる。入会理由や入会してよかったことの中にも「多職種連携を知りたい」「多職種の視点が学べた」といった回答が上位となっていた。さらに若手は多職種との議論をより求めて入会し、ベテランは入会してよかったこととして多職種とのつながりを挙げている。本協会の特徴・魅力の1つはやはり「多職種」という要素であると考えられる。

また所属に関する回答からは、「現場で実際に実践

「若手」と「ベテラン」 若手の方が多く回答していたのは？

本協会の活動内容についての情報をどのように入手しているか？

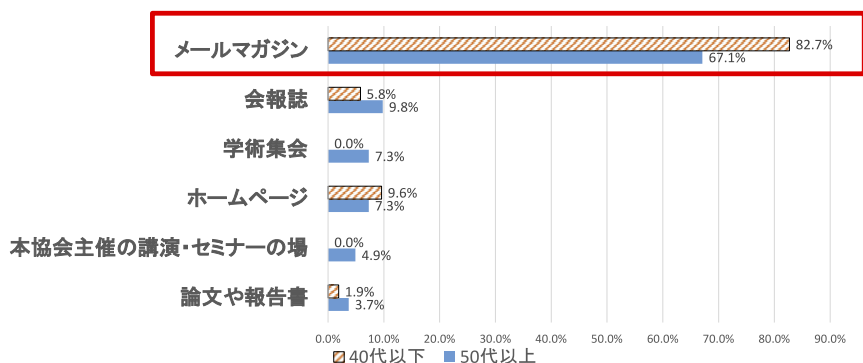


図 8 若手・ベテラン比較：本協会の活動内容についての情報をどのように入手しているか

「若手」と「ベテラン」 ベテランの方が多く回答していたのは？

入会して良かったよかった理由 (複数回答)

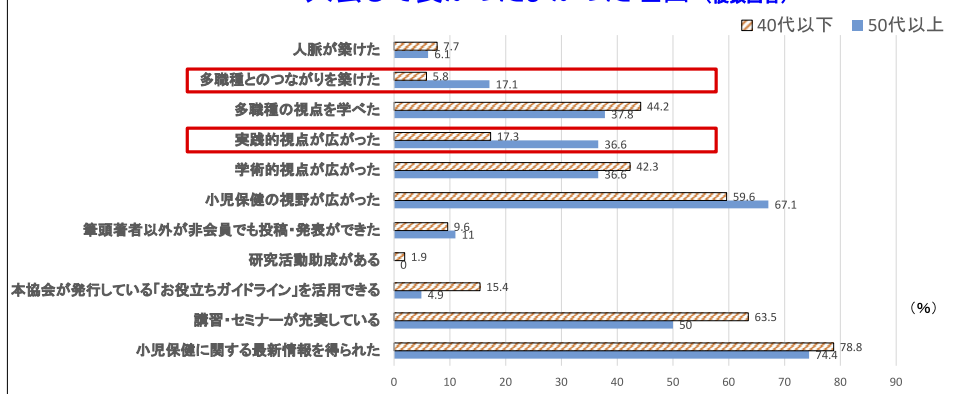


図 9 若手・ベテラン比較：入会してよかった理由

されている会員が多い」というのも特徴の1つと考えられた。さらに、入会理由では実践現場で活躍している会員が多いため、仕事に直結する内容を求めて入会されている会員が多いのではないかと考えられた。その点については「入会してよかったこと」に対する回答として、「最新情報を得られた」「講習・セミナーが充実している」などが上位に挙がってきていたことも関連しているのではないかと考えられ、学術面はもちろんのこと、「小児保健の実践につながるさまざまな資源を有している」ことが本協会の魅力の1つであることが示唆された。

本協会に関する情報入手手段は「メールマガジン」が圧倒的であり、会員がタイムリーに情報を入手する

仕組みを備えていることも魅力の1つである。同時に、本協会への関心を高めるために期待されるものとしてもメールマガジンが最も多く、メールマガジンは活用されているとともに、さらなる発展も期待されているのではないかと考えられる。

また、情報入手手段の1つとして学会誌がある。電子的に刊行されている学会誌「小児保健研究」は回答者のほぼ全員が「必ず読む」または「たまに読む」と回答しており、小児保健の視野を広げ、最新情報を得たいと思っている会員にとって重要な媒体と考えられる。一方で、自由記載欄に「(紙媒体での) 学会誌がなくなり、わざわざホームページをあけるのが手間、情報を得る手段が減ったと感じている。年に1回でも

いいので（紙媒体の）学会誌を作成してほしい」という意見もあった。この意見のように、郵送で紙媒体での学会誌が届くと、自然とひらいて読むということもよくわかる。しかしながら電子化の流れは世の潮流にのったものであり、メリットも多くあるため、電子ジャーナルへのアクセスが億劫に感じられない工夫があると素敵かもしれない。

本協会に期待することについては、自由記載では「今のままで十分」というご回答もあり、満足度が高い会員もおそらくたくさんいるのではないかと推測される。同時に、今後さらなる発展として、普段の仕事に活用できる資源や教育・研究支援、そして多職種でのネットワークを期待している会員がいることがわかった。このことから、現在の豊富な資源・魅力を活かしつつ、さらなる魅力を会員全体で主体的に積み上げていくことが重要ではないかと考えられた。また、本協会を知ったきっかけは「同僚・上司から聞いて」が最も多かったことから、そのような積み重ねを実践し魅力を感じた会員が周りに波及して仲間としていくことが会員増加の1つの有効な方法ではないかとも考えられる。

6. ま と め

本調査結果から考えられた本協会の魅力やさらなる期待として、主に以下の2点が考えられた。

1) 多職種による参画・連携

これは若手が期待することであると同時に、長く本協会で活動しているベテランが入会メリットとして感じていることとも一致していた。

2) 本協会がもつ最新の知見・情報発信力や教育支援力という魅力と、ICT活用を含めた今後へのさらなる期待
最新の知見・情報発信やセミナー等の会員教育支援に関しても魅力であるとともに、ICT活用を含めた今後への期待の高さがうかがえた。

謝 辞

お忙しい中、会員調査にご協力くださいました会員の皆様に深謝申し上げます。

本報告に関して、開示すべきCOIはありません。